

主催:立命館アジア太平洋大学 (APU)、読売新聞西部本社
共催:九州国立博物館

海

が結ぶ

アジア



Asia United by Sea

アジア太平洋海域シンポジウム
Asia Pacific Maritime Symposium

Organizers: Ritsumeikan Asia Pacific University, The Yomiuri Shimbun, Seibu
Co-Organizer: Kyushu National Museum

後援: 福岡県教育委員会、大分県、大分県教育委員会、別府市、別府市教育委員会

Supporting Bodies: Fukuoka Prefectural Board of Education, Oita Prefecture, Oita Prefectural Board of Education, Beppu City, Beppu City Board of Education

APU

Ritsumeikan Asia Pacific University



立命館アジア太平洋大学

学 長 **モンテ・カセム**

立命館アジア太平洋大学 (APU) は、2000年の開学から、お陰様で今年7年目を迎えます。これまで、APUを支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

APUは世界74カ国・地域から集まる国際学生が学生数の半数近くを占め、教員も約半数が外国籍という多文化環境のキャンパスを特徴としています。キャンパスでは、学生・教員が一体となり、民族・宗教・文化などの違いを越えて共に学び、相互に理解を深めています。

ご来場のみなさまには、この企画を通じて、あらためて、私たちが生活するこのアジア世界の成り立ちや、海が結ぶ交流の歴史を学び、現在につながる歴史の壮大な「海流」と人々の営為を、今に生きるわれわれの生活につながりあわせて、学んでいただければ幸いです。

最後になりましたが、本企画を共同で進めていただきました読売新聞西部本社様、九州国立博物館様をはじめ、諸準備にお力添えをいただきました関係者のみなさまに御礼申し上げます。



読売新聞西部本社

代表取締役社長 **小島 敦**

「地球は青かった」という言葉はあまりにも有名だ。1961年、人類初めての宇宙飛行士ユーリー・ガガーリンが美しい地球を見てそう言った。そしてその「青」は、まさに海の色だった。海は地球の表面積の72%をしめている。小さな島から五つの大陸まで、陸地で営まれる人類の文化は海をつうじてつながり、交流してきた。アジアが接する太平洋とインド洋にはモンスーンが吹き、かつては香料や陶磁器を積んだ貿易船がその風に乗る、いま現代国家のエネルギー源である石油と国々の産品がその海を運ばれている。

広々とした青い海は、わたしたちに大きな希望と夢を与えてくれる。それを考えるとき、海にかかわる歴史は単に文化交流史にとどまるものではなく、地球という大自然に挑んだ人類の知恵と努力の結晶であると知ることができる。アジア太平洋海域シンポジウム「海が結ぶアジア」が、現代に生きる世界の若者たちのそれぞれの国を結んでいる大きな海とそうした人類の知恵への理解をつうじて、一層の交流を深める場となることを期待したい。



九州国立博物館

館 長 **三輪 嘉六**

「アジア太平洋海域シンポジウム」の共催にあたり、ひとこと御挨拶申し上げます。

九州国立博物館は、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトのもと、アジア諸国と我が国との文化交流の歴史を扱う博物館として、昨年10月に開館以来、本当に多くの皆様方に御支援を賜り、このたび1周年を迎えることができました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

当館は九州に設立された初めての国立博物館であり、かねて地域の研究機関等と連携して各種事業を推進していくことは大変重要な使命であると位置づけてきました。今回、立命館アジア太平洋大学 (APU) とアジアをテーマにした本シンポジウムを開催できますことはその趣旨に一致するところであり、大変に意義深いものであります。本シンポジウムでは、アジアの姿を従来にはない新鮮な視点で考察する極めてユニークな内容であり、当館の基本的視点にも大いに共通いたします。アジア本来の姿とは何であるかを考えることは、日本を考えることにもつながり、本シンポジウムを契機にして、九州におけるアジア研究の裾野がさらなる拡がりをみせることを期待しております。

最後になりましたが、今回のシンポジウム開催にあたり御協力を賜りました関係者の皆様方に厚く感謝いたしますとともに、今後も九州の文化発展のためにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

APUは「自由・平和・ヒューマニズム」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」を開学の基本理念として、グローバルに展開する国際社会のリーダー育成をその使命としている。この教育目標の達成や具現化には、日本を取り巻くアジア太平洋地域の直近の政治・経済情勢の理解にとどまらず、これらの地域の歴史・文化・社会・交流に関する深い理解が不可欠である。本シンポジウムは、アジアをユーラシア世界を形成する一部として考え、地形からみるアジア、気候からみるアジア、文化の伝播からみるアジアをテーマに、時間と空間を広げて、本来のアジアとは何であるかを考える内容であり（詳細は下記）、開学理念を深めるアジア理解の一環として有意義な内容である。

同時にこのシンポジウムは、海域アジアの歴史をたどるという学術上も貴重かつユニークな内容であり、この取り組みを通じて、自治体、自治体教育委員会、中等教育を担う高校教諭・高校生、一般市民などへ、本学の教育内容を広く社会にアピールすることを目的としている。

また、講演内容は視聴覚材料を多く使い、APU学生および高校生をはじめとする一般参加者にとって、アジアを考えてもらうきっかけとなるよう心がけ、初学者の関心・理解を促しやすいものとする。

「時間と空間を広げて」のアジア考察とは、次の二つの視点からの内容を予定する。

視点1

アジアは、ユーラシア大陸の一部である。15-16世紀までのユーラシアは、アフリカとはサハラ砂漠によって、アメリカとは太平洋・大西洋に隔てられ、ほとんど交流がなかった。しかし、ユーラシア大陸内では、2000年来、地中海と極東をつなぐ海と陸の通商路を通じて、ヒト、モノ、情報が行き来した。そして九州は、この通商路と日本列島との接点であり続けた。ユーラシアは、決して均一ではなく多様性をほこるが、世界大にみれば、ユーラシア世界を形成していたとも言える。今回の企画は、東・東南アジアを、ユーラシア世界を形成する不可欠の一部としてみたらどうなるかを考察する。

視点2

ユーラシア大陸の東半分には湿潤熱帯地方が含まれる。陸のシルクロードと並んでユーラシア世界を東西に結ぶ海の大動脈は、東南アジアを通る。サハラ砂漠の例に見られるように、温帯と熱帯とは、通常、亜熱帯に発達する砂漠によって隔てられる。しかし、ユーラシア大陸の東部では、温帯と亜熱帯は一続きの植生・豊かな温暖帯（照葉樹林帯）によって結ばれ、それには西南日本が含まれている。温帯と熱帯とが分離されていないという現象は、世界でもここだけに見られる現象である。2つ目の視点としては、この連続性の意味を考察する。

15日(水)	
09:30	開場・受付
10:00	主催者挨拶
午前の部	
アジアドキュメンタリーフィルム上映	
10:05	解説 ○市岡 康子(立命館アジア太平洋大学教授)
10:20	フィルム上映(1)「鵜飼のふるさと 雲南-白族の楽園」
11:10	フィルム上映(2)「黒潮のカミに会いに行く-アジア太平洋 仮面の島々」
12:10	昼食休憩
午後の部	
13:00	主催者挨拶 モンテ・カセム 立命館アジア太平洋大学 学長 新井 治夫 読売新聞西部本社 常務取締役
	共催者挨拶 平中 英二 九州国立博物館 副館長
13:10	基調報告① ○福井 捷朗(立命館アジア太平洋大学教授) ○新田 栄治(鹿児島大学教授) ○蓮田 隆志(大阪大学21世紀COEプログラム特任研究員)
休憩	
14:20	基調報告② ○楠井 隆志(九州国立博物館主任研究員) ○甲斐 大策(作家・画家)
14:50	パネルディスカッション
15:50	閉会挨拶 甲賀 光秀 立命館アジア太平洋大学 学長補佐

※11月16日(木)は、九州国立博物館を見学。

午前の部

アジアドキュメンタリーフィルム上映

「映像で見る日本とアジア太平洋の文化」

○解説/市岡 康子(立命館アジア太平洋大学教授・アジア太平洋地域における映像人類学)

【作品名】「鵜飼のふるさと 雲南-白族の楽園」

ディレクター/市岡康子 プロデューサー/牛山純一 1981年

1980年、それまで外国人に開放されていなかった雲南省に入り、日本の基層文化と共通点の多い少数民族の生活や祭事を記録した。このフィルムはその「白族編」で、大理白族自治州にて田植えから稲が開花する季節まで、日本と共通する稲作にまつわる祭事を撮影。文化大革命のため20年以上禁止、中断されていた祭事の復活に立ち会った。

【作品名】「黒潮のカミに会いに行く-アジア太平洋 仮面の島々」

ディレクター/杉山忠夫、市岡康子 プロデューサー/牛山純一 1991年

民族学者の岡正雄(故人)の提唱した「仮面仮装を伴う来訪神の信仰が黒潮の流れに沿って分布している」という仮説に触発され、映像によって日本ではトカラ列島や琉球諸島、遠くはパプアニューギニアのニューブリテン島までその流れを追跡した。

※フィルムのタイトルは変わることがあります。

市岡 康子 (立命館アジア太平洋大学教授)

1939年 中国長春生まれ

【学 歴】 1962年 東京都立大学人文学部卒業

【職 歴】 1962~1971年 日本テレビ放送網株式会社報道局社会教養部
1972~2000年 日本映像記録センターテレビ制作部
1984~1989年 武蔵野女子大学文学部兼任講師(「映像民族誌」担当)
1989~1990年 東京大学教養学部兼任講師(「映像人類学」担当)
1990年 金沢大学兼任講師(「映像人類学」担当)
1992~1995年 武蔵野女子大学文学部客員教授(「映像民族誌」担当)
1996~2000年 武蔵野美術大学造形学部兼任講師(「ドキュメンタリー史」「ビデオ制作」担当)
2001年~ 立命館アジア太平洋大学教授

午後の部

パネルディスカッション

「アジア、その風土から」

1) パネリスト・基調報告内容

○福井 捷朗 (立命館アジア太平洋大学教授)	「アジアと海、ユーラシアと海」
○新田 栄治 (鹿児島大学教授)	「ものが語る海上交流」
○蓮田 隆志 (大阪大学21世紀COEプログラム特任研究員)	「海が閉じるとき、海が開くとき —海から見るアジアとそのダイナミズム—」
○楠井 隆志 (九州国立博物館主任研究員)	「中国の海洋神と『海の神々』」
○甲斐 大策 (作家・画家)	「移動系と定住系」

2) コーディネーター／板橋 旺爾 (読売新聞西部本社編集委員)

福井 捷朗 (立命館アジア太平洋大学教授)

1938年 東京都生まれ

【学 歴】 1961年 京都大学農学部農芸化学科卒業
1964年 京都大学大学院農学研究科修士課程農芸化学専攻修了
1974年 農学博士(京都大学)

(学位論文:Fukui H. 1973. Environmental Determinants Affecting the Potential Productivity of Rice: A Case Study of the Chao Phraya River Basin of Thailand. 178頁)

【職 歴】 1967～1975年 京都大学助手
1975～1987年 京都大学助教授
1987～1999年 京都大学教授
2000年～ 立命館アジア太平洋大学教授

新田 栄治 (鹿児島大学法文学部教授)

1948年 広島県呉市生まれ

鹿児島大学法文学部教授、東南アジア考古学会会長

東京大学文学部、東京大学大学院で考古学を学ぶ。シンラパコーン大学考古学部(タイ)、ロンドン大学考古学研究所で客員研究員。東南アジア大陸部の金属器時代から都市と国家ができる時代を研究対象としている。

蓮田 隆志 (大阪大学21世紀COEプログラム特任研究員)

1974年 兵庫県神戸市生まれ

大阪大学21世紀COEプログラム特任研究員、大阪外国語大学・大阪大学非常勤講師

【学 歴】 横浜国立大学教育学部卒、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学、博士(文学・大阪大学)

【専 攻】 近世ベトナム史・アジア海域史。
本シンポジウムに関連する業績として、『海域アジア史研究入門』(共編、岩波書店)が2007年春に出版予定。

楠井 隆志 (九州国立博物館主任研究員)

1968年 愛媛県生まれ

【学 歴】 1991年 九州大学文学部哲学科(美学美術史専攻)卒業

【職 歴】 1991～1996年 福岡県立美術館学芸員

1996～1998年 福岡県教育委員会

1998～2000年 福岡県立美術館学芸員

2000～2004年 文化庁・東京国立博物館(九州国立博物館設立準備室)

2004年～ 九州国立博物館主任研究員

【専 攻】 日本彫刻史／九州に遺る仏像や神像の研究を通して、東アジア史のなかの九州の在り方を探っている。

甲斐 大策 (作家・画家)

1937年 中国大連生まれ

早稲田大学・東洋美術史卒業。アングロ・サクソン系フォーク・バラードの研究、演奏、楽器製作。

1969年よりアフガニスタンと深く関わって今日に至る。その間、日中合作映画出演、デニス・ポッパー等と共にコムデギャルソンのショーモデル他。

レポート、エッセイ、小説「生命の風物語」「餃子ロード」「シャリマール」他著作多数。

板橋 旺爾 (読売新聞西部本社編集委員)

1946年 福岡県福岡市生まれ

読売新聞西部本社編集委員。

明治大学文学部史学科考古学専攻課程卒業。新聞社で歴史・文化を担当。人類文化発達史および比較文明論からの現代社会解析がテーマ。



Monte Cassim

President
Ritsumeikan Asia Pacific University

Ritsumeikan Asia Pacific University (APU) was established in 2000. Thanks to the efforts and support of the local community and public and private sectors, we are able to celebrate our 7th anniversary this year. I would like to take this opportunity to express my most heartfelt gratitude to all those who have supported APU and its academic philosophy over the past years.

APU is truly a multicultural community, with international students hailing from 74 countries and regions throughout the world forming almost half of the student body. Furthermore, approximately half the faculty members are from overseas. These students and faculty members come together as one on the APU campus, overcoming differences of race, religion and culture to both learn together and learn from each other.

APU has not only developed a new discipline of 'Asia Pacific Studies,' but also established an undergraduate and graduate curriculum to foster young leaders with the talent and ability to act on the global stage in the 21st century.

Throughout the symposium, participants will certainly make new discoveries about the evolution of the Asia Pacific region and about the history of human interaction from a maritime perspective. I trust that it will be a wonderful opportunity for participants to contemplate "maritime exchange" and examine how it's brought us to where we are today.

I would like to sincerely thank the organizers The Yomiuri Shimbun Seibu and The Kyushu National Museum and everyone else who has contributed to putting on this superb symposium.



Atsushi Kojima

President
The Yomiuri Shimbun, Seibu

"The Earth is blue," is an all too famous quote. It was spoken in 1961 by Yuri Gagarin, the first human in space, upon looking at the beautiful Earth. This "blue" was the very color of the oceans, which occupy 72% of the surface area of the Earth. From the smallest island through to the five continents, human civilization on land are connected by the sea and have come to interact with each other. Monsoons blow through the Pacific and Indian Oceans which connect Asia, and in the past, trading ships packed with spices and ceramics traversed the sea, blown by that wind. These days, the sea carries petroleum, the energy source of modern nations, as well as the products of many countries.

The wide, blue ocean provides us with hope and lofty dreams. The history of the sea is not limited merely to the history of cultural exchange, but rather the fruit of humankind's wisdom and effort in taking on a vast wilderness. I look forward to this Asia Pacific Maritime Symposium as being a forum to deepen exchange between the young people living in the world today even further through the ocean, which binds them together, as well as through the mutual understanding which leads to human wisdom.



Karoku Miwa

Director
Kyushu National Museum

I would like to offer a humble greeting at the inception of this event, the Asia Pacific Maritime Symposium.

The Kyushu National Museum is a museum, which focuses on the history of cultural exchange between Japan and other Asian countries and regions from the perspective of Asia's historical influence on the formation of Japanese culture. Since opening our doors last October, we have truly been honored by the support of many people, and as a result, we were able to mark our first anniversary. I would like to take this opportunity to express to you all my deep gratitude.

This museum is the first national museum ever to be established in Kyushu, and the continued cooperation with regional research institutions in order to promote a wide range of operations has come to be a tremendously important mission for us. The very fact that Ritsumeikan Asia Pacific University (APU) is holding this Asia-themed symposium is consistent with the aims of our mission and is of great significance. The unique program of this symposium considers the face of Asia from a fresh, unconventional perspective, and in doing so shares a great deal in common with our museum's perspective. Thinking about the nature of Asia leads to thinking about Japan, and on the occasion of this symposium, I sincerely hope that the breadth of Asian research in Kyushu will undergo further expansion.

Finally, I would like to warmly thank all those who cooperated with us in holding this symposium. I hope for your continued assistance in promoting the cultural advancement of Kyushu.

Ritsumeikan Asia Pacific University (APU) is committed to promoting its founding ideals of "Freedom, Peace and Humanity," "International Mutual Understanding," and the "Future Shape of the Asia Pacific Region" and its mission to foster leaders that are equipped to face the challenges of a globalizing society. To achieve this educational objective, it's important to not only have an understanding of the economical and political climate of the Asia Pacific region surrounding Japan, but also have a deep understanding about the regions' history, culture, society and exchange. By expanding the notion of time and space in order to examine Asia as part of Eurasia, the themes of the Symposium, "Viewing Asia from a Geographical Perspective," "Viewing Asia from a Climatic Perspective," "Viewing Asia by the Spread of Culture" will form the basis of discussions on what "Asia" really means in today's society. (Please refer below for details).

The Symposium will also delve into Asia's maritime history, which is an academically unique and important theme. Through this event we hope to appeal APU's mission to various bodies including local authorities, the board of education, secondary school teachers and also members of the community.

Audio-visual aids will be widely used throughout the Symposium so that many people including APU students, junior and senior high-school students and the general public can follow the issues linked to the theme "Asia United by Sea: Retracing Cultures, Histories and Exchanges."

Discussions on "expanding the notion of time and space" in regards to Asia will be based on the following two perspectives.

Perspective

1

Asia is one part of the Eurasian Continent. Up until the 15-16th century, Eurasia was separated from Africa by the Sahara desert and from the Americas by the Pacific and Atlantic Oceans. There was virtually no interaction between the continents during this time. However, for the last 2000 years within the Eurasian Continent, people, goods and information have traveled via the "Silk Road," which connects the Mediterranean Sea and the Far East. Kyushu was the contact point connecting the rest of Japan to this trading route. Eurasia is not homogeneous and is proud of its diversity. In fact, one can say that Eurasia was in fact a world by itself. This Symposium will consider how this diversity was indispensable in forming East and Southeast Asia and the Eurasian world.

Perspective

2

The Eastern-half of Eurasia contains humid tropical regions. Along with the overland "Silk Road," the sea passing through Southeast Asia links the east and west regions of Eurasia. As can be seen in the example of the Sahara Dessert, the temperate zone and the tropical zone are usually divided by a subtropical dessert. However, in eastern Eurasia the temperature zone and subtropical zone are connected. This is a phenomenon that can only be seen in this part of the world. The Symposium shall examine the meaning of this and how it is related to these two perspectives.

Schedule

Schedule (November 15th)	
09:30	Doors Open, Reception
10:00	Greetings from Organizer
Morning Session	
10:05	Introduction of the Documentary Films on Asia
10:20	Screening of Films (1) <i>Ukai no Furusato</i> -Visiting Yunnan Province and Observing Local Fishing Traditions by the Bai People
11:10	Screening of Films (2) Coming Face to Face with <i>Kuroshio</i> , God of the Sea
12:10	Intermission for lunch
Afternoon Session	
13:00	Greetings from Organizer Monte Cassim (President, Ritsumeikan Asia Pacific University) Haruo Arai (Executive Director, The Yomiuri Shimbun, Seibu) Greetings from Co-Organizer Eiji Hiranaka (Deputy Director, Kyushu National Museum)
13:10	Keynote Presentations 1
	Intermission
14:20	Keynote Presentations 2
14:50	Panel Discussion
15:50	Closing Address Mitsuhide Kohga (Advisor to the President, Ritsumeikan Asia Pacific University)

*November 16th - Visit to Kyushu National Museum

Morning
Session

Documentary Films on Asia:

Viewing Japanese and Asia Pacific Culture through Film

○ Introduction by Professor Yasuko Ichioka (Ritsumeikan Asia Pacific University / Research Field: Visual Anthropology in the Asia Pacific Region)

Ukai no Furusato

-Visiting Yunnan Province and Observing Local Fishing Traditions by the Bai People

1981. Directed by Tadao Ichioka. Produced by Jun-ichi Ushiyama.

This documentary chronicles the entering of Yunnan Province in 1980, which had never been open to foreigners before, and recorded the lifestyle and rituals of an ethnic minority group with many commonalities with the foundations of Japanese culture. This film is the "Bai People Volume," and covers rituals shared by Japan connected with rice cultivation, from the transplantation of rice seedlings through to the rice harvest season, in the Dali Bai Autonomous Prefecture. The film witnesses the revival of rituals which had been prohibited and suspended for more than 20 years due to the Great Proletarian Cultural Revolution.

Coming Face to Face with *Kuroshio*, God of the Sea

1991. Directed by Tadao Sugiyama and Yasuko Ichioka. Produced by Jun-ichi Ushiyama.

Inspired by the late ethnologist Masao Oka's hypothesis that "the belief in visiting deities disguised by masks are distributed along the path of the *Kuroshio* Current," this film uses video to trace its path from the Tokara Islands and Ryukyu Islands in Japan to New Britain in Papua New Guinea.

*Film titles may be subject to change.

Yasuko Ichioka (Professor, Ritsumeikan Asia Pacific University)

Born in Changchun, China in 1939.

[Education] Graduated from Department of Social Sciences and Humanities,
Tokyo Metropolitan University in 1962

[Employment] 1962~1971 NIPPON TELEVISION NETWORK CORPORATION (NTV)
1972~2000 NIPPON A-V PRODUCTIONS (NAV)
1984~1989 Part-time Lecturer in Ethnology and Film at Musashino Women's College
1989~1990 Part-time Lecturer in Visual Anthropology at University of Tokyo
1990 Part-time Lecturer in Visual Anthropology at Kanazawa University
1992~1995 Visiting Professor in Ethnology and Film at Musashino Women's College
1996~2000 Part-time Lecturer in History of Documentary Film
and Video Production at Musashino Art University
2001~ Professor, Ritsumeikan Asia Pacific University

Afternoon
Session

Panel Discussion

Asia United by Sea: Retracing Cultures, Histories and Exchanges

1) Panelists and Titles of Keynote Presentations

- Professor Hayao Fukui (Ritsumeikan Asia Pacific University) "Asian Sea, Eurasian Sea"
- Professor Eiji Nitta (Kagoshima University) "Maritime Treasures of Southeast Asia"
- Mr. Takashi Hasuda (Designated Researcher of the 21st Century COE Program Interface Humanities, Osaka University)
"When the Seas Meet and Divide -The Dynamism of the Sea from the Asian Perspective"
- Mr. Takashi Kusui (Senior Researcher, Kyushu National Museum) "Asian Gods of the Sea"
- Mr. Daisaku Kai (Painter and Novelist) "Nomads and Settlers"

2) Coordinator: Mr. Oji Itahashi (Senior Writer, The Yomiuri Shimbun, Seibu)

*Titles of keynote presentations may be subject to change.

Hayao Fukui (Professor, Ritsumeikan Asia Pacific University)

Born in Tokyo in 1938.

- [Education] 1961 Bachelor of Science in Agricultural Chemistry, Kyoto University
 1964 Master of Science in Soil Science, Kyoto University
 1974 Doctor of Agriculture in Soil Science, Kyoto University
 (Dissertation: Fukui H. 1973. Environmental Determinants Affecting the Potential Productivity of Rice: A Case Study of the Chao Phraya River Basin of Thailand. 178 pages)
- [Employment] 1967~1975 Assistant Professor, Kyoto University
 1975~1987 Associate Professor, Kyoto University
 1987~1999 Professor, Kyoto University
 2000~ Professor, Ritsumeikan Asia Pacific University

Eiji Nitta (Professor, Kagoshima University)

Born in Kure City, Hiroshima Prefecture in 1948.

Professor of Archaeology at Kagoshima University and President of Japan Society for Southeast Asian Archaeology

Finished BA, MA and Ph. D in Archaeology at the University of Tokyo. Visiting scholar of the Faculty of Archaeology Silpakorn University and the Institute of Archaeology of the University College London. His present study targets the societies between the metal age and the emergence of cities and states in mainland Southeast Asia.

Takashi Hasuda (Designated Researcher of the 21st Century COE Program, Interface Humanities)

Born in Kobe in 1974.

Designated Researcher of the 21st Century COE Program, Interface Humanities
 Osaka University; Lecturer in Southeast Asian History at Osaka University of Foreign Studies and Osaka University

- [Education] BA in Asian History, Faculty of Education, Yokohama National University; Accomplished Credits for Doctoral Program, Graduate School of Letters, Osaka University; Ph.D in Asian History, Osaka University

[Current Research] Historiography and Political History of Early Modern Vietnam, Maritime Asian History

Profile of Panelists

Takashi Kusui (Associate Curator, Kyushu National Museum)

Born in Ehime Prefecture in 1968.

[Education] 1991 Graduated with a major in Aesthetics and Art History, Department of Philosophy, School of Letters, Kyushu University

[Employment] 1991~1996 Associate Curator, Fukuoka Prefectural Museum of Art
 1996~1998 Fukuoka Prefectural Board of Education
 1998~2000 Associate Curator, Fukuoka Prefectural Museum of Art
 2000~2004 Office of the Planning and Development of Kyushu National Museum, Tokyo National Museum, Agency for Cultural Affairs
 2004~ Senior Researcher, Kyushu National Museum

[Specialization] History of Japanese sculpture: exploring the state of Kyushu throughout the history of East Asia through research of Buddhist statues and deity images in Kyushu.

Daisaku Kai (Painter and Novelist)

Born in Dalian, China in 1939.

Graduated from Waseda University with a major in Oriental Art History.

Member of the Art History Academy. Has studied, performed and created Anglo-Saxon inspired folk ballads. Since 1969, has had close ties with Afghanistan and has visited the country several times to investigate the Afghan people and their culture. Has modeled with Mr. Dennis Hopper and others for "Comme de garcon," and has acted alongside Mr. Zhan-fan-yi and others in a China-Japan collaborated film. Has published various novels and essays.

Oji Itahashi (Senior Writer, The Yomiuri Shimbun, Seibu)

Born in Fukuoka in 1946.

Senior Writer, The Yomiuri Shimbun, Seibu. Areas of responsibility include history and culture.

Graduated with an Archeology Major, Department of History and Geography, School of Arts and Letters, Meiji University. Currently researching the development of human culture and comparative civilizations from the perspective of modern society.



APU

Ritsumeikan Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学 ネットワーク・オフィス

〒874-8577 大分県別府市十字原1-1

TEL:0977-78-1114 FAX:0977-78-1113

<http://www.apu.ac.jp>